

■コント「大島半端ない」

全日本高等学校女子サッカー選手権大会。北浦和高校のロッカールーム。選手たちは椅子に座り、テンション高い監督が中央に立つ。

【試合前】

監督

いよいよな、富士見純心との対決だ。お前たちが待ちに待った試合がやってきた。ここ五年、一度も勝ってない相手だ。お前たちの先輩が、どれだけ悔し涙を流してきたか、俺はよく知ってる。負けたら悔しい。次は絶対雪辱を果たすと誓った昨年の思いを忘れるな。試合のビデオはすり切れるほど見たはずだ。一年生の大島にハットトリックを決められた。ディフェンダーもキーパーも泣いていた。しかしな、大島がゴール前でどう動くか、もうお前らは完璧に研究してきた。大島封じの練習を積み重ね、俺たちは今日を迎えた。もうオタオタしていた去年の俺たちじゃない。富士見純心のサッカーをこの手につかんでるんだ。お前らの勝ちだよ。この試合はもらったようなもんだ。今日はいつらをオタオタさせてやれ。なんだ、北浦和高校！ 去年と違うチームじゃないかと、あいつらを慌てさせてやれ！ お前らには出来るんだ。出来るよな！

選手たち

出来ませう！

監督

出来るな！

選手たち

(立ち上がり) 出来ませう！

監督

絶対勝つ！

選手たち

絶対勝つ！

監督

絶対決める！

選手たち

絶対決める！

監督

今日は北浦和の日だ！

選手たち

今日は北浦和の日だ！

監督

よし、行ってこい！

有吉選手

(C)

(手を叩いて) 行くぞ行くぞ行くぞ！

選手たち

(それぞれに気合いを入れる)

選手たち、試合に出て行く。照明暗くなり、音楽演奏。

音楽1「サッカー応援音楽(チャント)」

【ハーフタイム】

照明。前半が終わり、息を切らせて選手たちロッカールームに登場。

顔が土で汚れている者あり。劣勢の様子。遅れて監督が登場。

監督

(苛ついている)前半で大島に3点入れられた。とにかくあいつを止めないと。岡村！あのパスは身体を入れられなかったのか？

岡村選手

(泣きべそ)ヒールパスで、意表をつかれて、気づいた時には先に行かれてました。

監督

(怒る)そういう動きをするんだよ！

岡村選手

(泣きべそ)去年はヒールパスしてなかったです！

監督

(怒る)島崎！あのPKは防げただろう。

島崎選手

(泣きべそ)すみません！からだ当てないと決められると思って。

飯嶋選手

(泣きべそ)絶対決められてました！

監督

(怒る)しかしあいつが打ったPKは真ん中コロコロだったぞ！

飯嶋選手

(泣きべそ)左に蹴ると見せかけて真ん中に来たんで、止められませんでした！

監督

くそー!!前半終えて4対0だ。きびしいが!!まだ何とかなる!!ま
ず1点だ!!1点ずつ返して行こう!サッカーは点入れなきゃ勝てな
いスポーツだから!残り45分、時間はたつぷりある!観客席も満員
だから!みんな最後まで応援してくれてんだ!!分かってるな!!
はい!!

選手たち

監督

富士見純心は全然オタオタしなかった。なんか自信持ってたよ、悔しいなー。でも1点取ればな、焦り始めるんだ。あれっ、何かがおかしいと慌て始める。1点でまったく違うチームになるから。お前らはその1点で自信を持ち始める!やりたかった歯車がかみ合い始めて、そうなったら後半だけで6点は取れる!

有吉選手 (C)

自分たちのサッカーをピッチで見せよう!

監督

そうだ!お前らのよさを見せてくれ!出来るよな!

選手たち

出来ます!

監督

出来るな!

選手たち

(立ち上がり)出来ます!

監督

絶対勝つ!

選手たち

絶対勝つ!

監督

絶対決める!

選手たち

絶対決める!

監督

今日は北浦和の日だ!

選手たち

今日は北浦和の日だ!

監督

よし、行ってこい!

有吉選手 (C)

(手を叩いて)行くぞ行くぞ行くぞ!

選手たち

(それぞれに気合いを入れる)

選手たち、試合に出て行く。照明暗くなり、音楽演奏。

音楽2 「サッカー応援音楽（チャント）」

【試合終了後】

照明。試合が終わり、泣きながら選手たちロッカールームに登場。顔が土で汚れている者あり。敗戦の様子。遅れて監督が登場。

選手たち

（声を上げて泣いている）

監督

（監督も涙目）・・・よく頑張った。結果は、9対0。二桁行かなかったからな。富士見純心は予選で17対0やってるチームだから。化け物だから。大島とか、すぐ日本代表に呼ばれるだろう。オリンピックとかワールドカップとか行っちゃうだろう。もうプロだよ。そんなの相手にしてよくやったよ。

飯嶋選手

（泣きながら）すみません。またPK止められませんでした。左に蹴ると見せかけて真ん中だろうとおもったら、右に蹴られました。

監督

俺もあれは見抜けなかった。あれはどんなキーパーでも見抜けないよ。

島崎選手

（泣きながら）その前私が股抜きされたのがいけなかったんです。すみませんでした！

監督

あの股抜きは凄すぎるもん。イニエスタかと思っちゃった。俺だって抜かれてたよ。

岡村選手

監督

（泣きながら）その前で私がボール取られたからいけなかったんです！あれはしょうがない。うしろからのボール、ピタッとトラップして、さつとボール取ってったからな。大島半端ないわ！

岡村選手

（泣きながら）半端ない！なんであんなこと出来るの！出来るんだつたら、最初に言っといてほしい！（泣く）

監督

凄かったな。凄すぎて、俺、大島にサインもらいに行つたわ。

選手たち、いっそう泣く。

監督

・・・今日は富士見純心の日だった。・・・でもな！でも！サッカーの質自体では、負けてなかったぞ。北浦和のパスサッカーを見せることが出来たと、俺は思いたい！富士見純心は、すごい点取り屋がいて、壁みたいなディフェンダーがいて、それだけじゃん。ただ点とって抑えただけよ。そんなサッカー美しくないじゃん。美しさじゃ、お前らのが断然上だから。俺は、サッカーってそういうものだと思ってる。だから、これからお前らなりの、北浦和高校の美しいサッカーを磨いて行ってほしい！自信を持って！いいな！

選手たち

（号泣）はい！

監督
選手たち
監督

(涙声) 俺が、お前らを指導するのは、これが最後になるから。
えっ・・・！(シヨツク)
来年から、富士見純心の監督になるんで。

選手たち、全員こける。

おわり